

(枕草子①)

枕草子 ↓(作者)

春はあけぼの。やうやう日くまらぬへ

山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる

雲のほそくたなむらさきなる。

夏は夜。月のころはさらさら、やみも

なほ、螢の多く飛びちがひたる。また、

ただこころいとおぼつかぬのから、うち光りて

行くもをかし。雨など降るもをかし。